

## 演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

## 福澤諭吉ここにあり

「平等自由の世の中に独立自尊の人が住む 世界の日本つくり」と若者たちに呼びかけて福澤諭吉ここにあり

毎年1月10日の福澤先生誕生記念会で幼稚舎生が元氣よく合唱する「福澤諭吉ここにあり」の一節である。

福澤は「一身独立して一国独立す」の信念によって、官よりも民の強化による近代化をめざし、慶應義塾を創立して人材育成に努めた。座学偏重を嫌い、知識習得型の教育を、「教師の苦心は僅に此活字引と写字器械とを製造するに止まりて世に無用の人物を増したるのみ」(「文明教育論」時事新報明治22年8月5日社説)と手厳しく批判している。近年、グローバル化が進み、先行きが不透明な状況の中で、語学力、創造力、コミュニケーション能力に富み、世界に通用する人材が求められているが、そうした力は知識偏重の座学や画一的な教育からは生まれない。総合力を養う教育が必要である。この頃AO入試が人気だが、義塾ではAO入試の元祖であるSFCをはじめ、各学部がより進化した総合力を問う入試制度改革に着手している。

●常任理事

長谷山

彰

逆に参加大学が増えているセンター入試については、私立大学で初めて導入した歴史を持つにもかかわらず、知識の習得度を問う試験の限界を見極め全面撤廃した。

小さな蘭学塾から巨大な総合大学に成長した慶應義塾には、伝統を守り、しかも進化を続けなければならない老舗のつらさがある。創業と守成と孰れか難き——唐太宗の問いを俟つまでもない。しかし、大学・一貫教育校において新たな教育プログラムが計画され、塾生が教室を出て、広く国内や海外に飛び出して学ぶ機会が増えつつある。今春は慶應義塾横浜初等部も開校する。卒業生は湘南藤沢中・高等部へ進学し、「国際化」「情報化」を柱とする最新の小中高一貫教育を体験する。21世紀初若々しい学校の誕生は慶應義塾の明るい未来を象徴している。「学校は人に物を教ふる所にあらず、唯其天資の発達を妨げずして能く之を発育する為の具なり」(「文明教育論」)

「教育」ではなく「発育」を説いた福澤諭吉創業の精神を守りながら、慶應義塾の進化をめざしたい。